

中学生中国文化体験派遣報告書

友好都市・浙江省奉化市との交流事業

入間一奉化



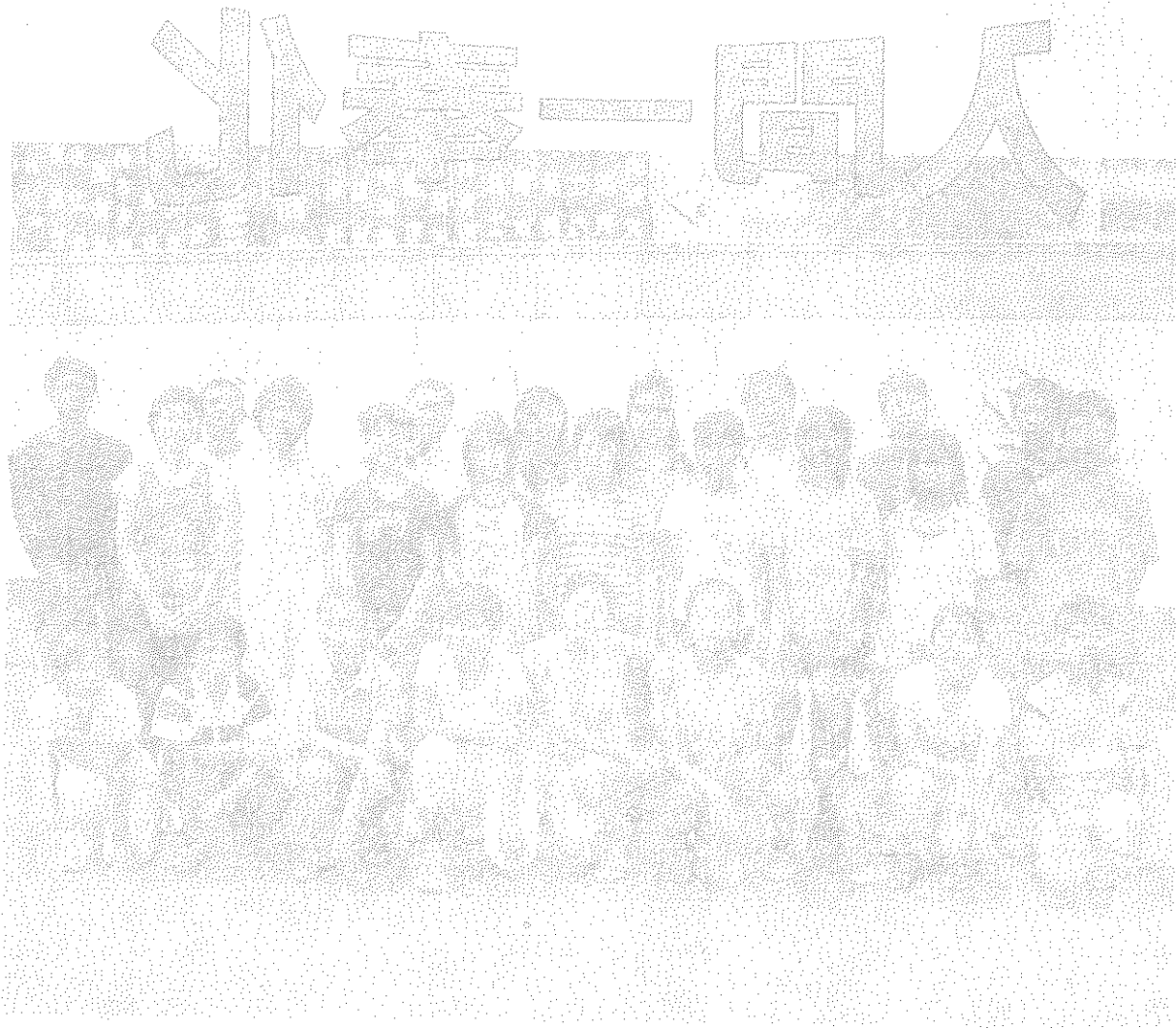
期日 平成17年8月19日(金)～8月24日(水)

主催 入間市・入間市国際交流協会

<http://www.city.iruma.saitama.jp./i-society>

書音群畫派翹村外文國中坐學中

業事航交のり市外奉送巧術・市雅群太



(本)目 25 頁 5—(金 10 日) 11 日 21 日 27 日 28 日
会 組 交 際 國 市 間 人・市 間 人 辦 主

(本)目 25 頁 5—(金 10 日) 11 日 21 日 27 日 28 日

目 次

派遣者名簿	1	
日程表	2	
お世話になった方たち	3	
訪問団報告		
中国文化体験派遣事業に参加して	田辺 凌	4
中国に行って学んだこと	比留間文香	5
中国に行ってみて	吉田瀬奈	6
ホームステイで学んだこと	小山 香	7
中国に行って	松井絵美	8
中国の食事について	坂本友香	9
中国という国	川合理恵子	10
ドウ・ユウ・ライク・ジャパン	布施若菜	11
中国文化体験に参加して	田辺真悠	12
集合写真あれこれ		13
明日はもっと美しい	河野靖子	14
経験するか、しないか	坂本有司	15
憩いのひと時		16
お別れ会		17

入間市中学生中国文化体験派遣事業 派遣者名簿

No	氏名	姓	学校名等	担当	友誼の名前
1	田辺 凌	男	上藤沢中学校3年	あいさつ	沈樹文
2	比留間 文香	女	金子中学校2年	お別れ会	汪 乙
3	吉田 瀬奈	女	野田中学校2年	お別れ会	徐璐靜
4	小山 香	女	野田中学校2年	あいさつ	陸佳寧
5	松井 絵美	女	向原中学校2年	会 計	董藜莎
6	坂本 友香	女	黒須中学校2年	お土産	毛格格
7	川合 理恵子	女	東町中学校2年	お別れ会	周 婕
8	布施 若菜	女	野田中学校2年	あいさつ	姜莎莎
9	田辺 真悠	女	藤沢中学校2年	お土産	張聡聡
10	高野 恵里香	女	入間ケーブルテレビ	記 録	
11	河野 靖子	女		通 訊	
12	坂本 有司	男	市役所自治文化課	団 長	

日 程 表

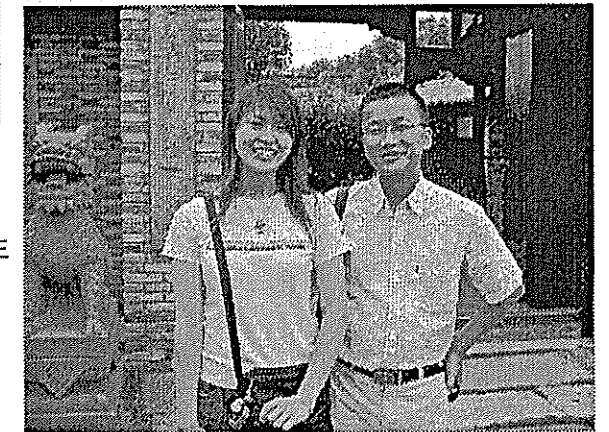
(8月19日～24日)

期 日	スケジュール	備 考	
8月19日(金)	午前4:30	市役所正面玄関集合	全日空 929 便
	午前4:45	市役所出発	
	午前7:45	成田空港到着	
	午前10:05	成田空港離陸	
	午後0:25	杭州空港着陸	
	夕方	歓迎パーティー	
8月20日(土)	午前中	溪口へ遊覧	
	午後	藤頭へ見学	
8月21日(日)	現地家庭生活体験 各ホストファミリーと一緒に過ごす		
8月22日(月)	昼のうち	錦屏中学校を見学。 各自自宅に戻り、荷造り	
	夕方	お別れのパーティー	
8月23日(火)	午前9:00	奉化市から寧波空港へ	中国東方航空 5506 便
	正午	寧波空港離陸	
	午後0:40	上海虹橋空港着陸	
	午後1:50頃	昼食(上海閩安大酒店)豫園、 外灘、南京路、新天地見学	
	午後6:30	夕食(シーガスパレス)	
	午後8:30	ホテル(虹橋賓館)到着	
8月24日(水)	午前10:10	ホテル出発	全日空 920 便
	午前11:10	上海浦東空港到着	
	午後1:10	上海浦東空港離陸	
	午後4:55	成田空港到着	
	午後8:30頃	市役所正面玄関到着	

お世話になった方たち



人民政府の吳亜芬さんと朱薇芬さん



記録担当の高野さんと錦屏中学校の張文武先生



中学校の何校長先生(男性)



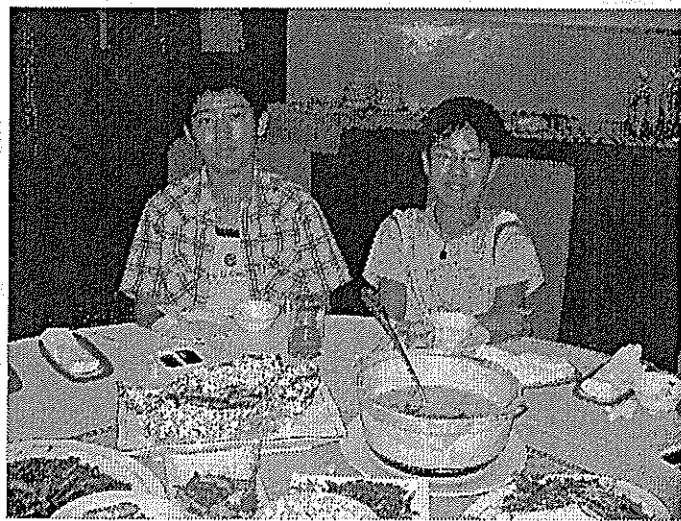
錦屏中学校の仇党培先生(中央)

中国文化体験派遣事業に参加して

上藤沢中学校 3年 田辺 凌

8月19日から24日まで、中国の友好都市・奉化市で異文化体験をしてきました。奉化市は日本の鹿児島と同じくらいの所に位置し、夏場は蒸し暑い所です。しかし、中国では電力不足や経済的な貧困から、家庭によってはクーラーがなかったりします。僕がホームステイした家は、クーラーが取り付けられている快適な家でした。家の中は大変広く、子供部屋は僕の部屋よりずっと広がりました。浴槽はなく、毎日シャワーを浴びて、日本のようにゆっくり疲れを取る感じではなかったです。

ホームステイした家は沈樹文君の自宅で、すっかり友達になりました。中国語を少し習って行きましたが、あまり通じなかったため、英語と身振り手振りで言いたいことを伝えました。言葉の違う国に行くと不安でしたが、何とか伝えることが出来てよかったと思いました。中国



の中学生は、日本の中学生と同じように、友達とバスケをしたり家でビデオを見たりしていると聞きました。

樹文君の家の朝食は、毎朝おかゆでした。両親はほとんど僕が起きる前に朝食を済ませていて、樹文君と二人で朝食をとりました。この点は日本とあまり変わらないと思いました。中国の家庭料理はとてもおいしかったです。また、中国では水道水は飲んではいけなくなっていたので、いつもペットボトルの水を持たされました。この点はとても不便で、中国が日本より遅れていると思いました。

中国の道路はとても危険でした。道路いっばいに車やバイクが走っている中を、平気で人が道路を横切っている光景をよく見ました。他に、車などの乗り物は、ぶつかりそうになると相手が止まってくれず、自分からは止まろうとはしませんでした。本当にぶつかりそうになるとお互いに止まります。日本では見ることも出来ない光景でした。

いろいろな場面で、日本と中国の違い、似ているところ、日本の良さ、中国の良さを体験してきました。ホームステイした沈樹文君の家には、大変お世話になりました。この体験を今後の活動に生かしていきたいと思います。

中国へ行って学んだ事

金子中学校 2年 比留間文香

私は夏休みに、日本に一番近い国、中国でホームステイを体験しました。中国でのホームステイについては、市報に掲載された記事を見た母から話を聞きました。私は、中国は貧しいというイメージを持っていたので少し迷いましたが、めったにできない経験なので応募することにしました。その後面接試験を受け、合格の通知が届いたときは正直ほっとしました。

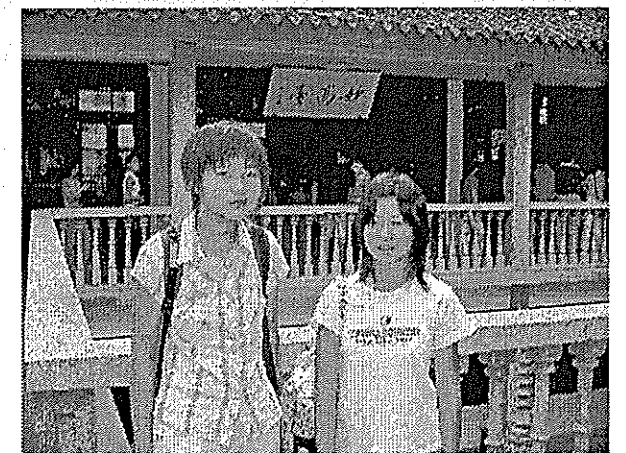
見学した中国の中学校は1クラス34人で、14クラスあるとのことでした。二期制で修学旅行はなく、日本とかなり違うなど驚きました。また、お昼の給食はなく、食堂か家で食べていると説明を受けました。私がホームステイした奉化市は桃の産地で、1・2元のお金で3・4個買えます。果物は天びんで計ります。私は、ホストファミリーの家でたくさんの果物を食べました。すいかやぶどう、桃、ライチ。中でもおいしかったのは、桃とすいかでした。また、ホストファミリーのお宅には、テレビ3台とパソコンがあり、とても充実していました。テレビでは日本のアニメも放映されていて、スラムダンクやドラえもん、アトムを見ました。

私が一番驚いた事は、道路が日本のようにきれいに整備されていない事、道路が人力自転車、車、人、バイク、タクシーでごちゃごちゃになっている事です。バイクはヘルメットなし、何人乗っても違反になりません。自転車の二人乗りもOKです。私もホストファミリーのお父さんやお母

さんのバイクに乗せてもらいましたが、かなり怖かったです。

また、ホストファミリーと過ごした日曜日には、みんなで動物園に行きました。中国の動物園は日本の動物園よりも大きく、トラやライオンなどの猛獣から猿や羊などの小動物までさまざまな動物がいました。私は、熊にえさをあげたりしました。そして一番怖かったのは、本物のトラと一緒に写真を撮ったときです。本物を生で見るのは初めてで、いつ噛まれるか不安で写真の顔もぎこちなくなっていました。

ホームステイしたお宅の家族の方々には、とても優しくしていただきました。特に、おばあちゃんは本当の孫のように接してくれました。私がこのホームステイで学んだことは、日本がとても恵まれているということです。そして、中国でも英語が通じること、ジェスチャーでも相手にわかってもらえるということです。これからはいろいろな国に行きたいと思いました。



中国に行ってみて

野田中学校 2年 吉田 瀬奈

私が中国にいった一番驚いたことは、家のことについてです。中国に対して、「汚い」というイメージを持っていましたが、そんなことは全然なく、日本の何倍も豪華な家庭でした。私のホストファミリーの家は4階建てで、一部屋が10畳かと思うほど広く、ユニットバスでジャグジー、らせん階段・・・本当にお城のような建物でした。



また、その他で驚いたことといえば三つほどあります。一つ目は英語です。中国人は中国語しか話せないのかと思っていましたが、子供たちはみんな英語を話せたので驚きました。二つ目は交通手段です。日本には信号がありますが、中国にはあまりありません。車の急な飛び出しやバイクの4人乗りなど、危険な場面を何回も目にしました。主に交通手段はタクシーか人力自転車で、タクシーなどはガタガタな道路の上を70km位で走るの、怖くてとても驚きました。三つ目は料理です。正直なところ、あまり口に合わなくて、特にしょう油がダメでした。上海の方ではさっぱりした味付けだったので大丈夫でしたが、奉化市の食事はつらかったです。

さて、私が中国に行こうとした理由は、中国の音楽文化について調べたかったから

です。ホストファミリーの璐静さんの家庭にはピアノがあって、話を聞くと、始めたのは最近だと言っていました。周りにもたくさん習っている人がいると言っていました。璐静はリコーダーも習っていました。璐静が通っている音楽教室に一緒に行ったとき、二胡を習っている子がいるので、私も弾かせてもらいました。意外と簡単で、日本の「さくら」を弾くことができました。また、他のホストファミリーの子の中にも琴を習っている子もいて、身近な楽器なんだなあと思いました。

ホストファミリーの璐静とも親しくなれて、一緒に行ったケーブルテレビの高野さんや他の中学校の生徒と本当に仲良くなれて楽しかったです。良い経験が出来ました。

ホームステイで学んだこと

野田中学校 2年 小山 香

私は、今回ホームステイをして、予想以上のことが分かって本当に驚きました。まず、私が一番印象に残ったのが、中国の中学生は英語がすごく良くできるということです。みんな私たちと同じくらいの英語力だと思っていたのに、覚えている単語の量もハンパじゃないし、言うのが速いので二度聞かないと理解できませんでした。中国では小学校に入っただけで英語を教わることは知っていたのですが、こんなにも差があるとは思いませんでした。漢字を使ったりしてなんとか会話できたけど、自分の勉強不足が身にしました。

また、中国の生活のしかたも日本とは違っていました。交通が一番違っていると思います。なんといっても、中国は交通量が多く、歩道があるにもかかわらず、歩行者は車道を歩いています。車、バイク、人、自転車、人力自転車、時には牛も混ざって道路を使っています。常にクラクションが鳴り響いていて、事故が起きないのが不思議でした。道には人力車の自転車バージョンみたいな乗り物があり、その人力自転車が頻繁に行きかっています。3～4元とわりと安いのでよく利用するようです。学校へは人力自転車でとっても良いし、バス、自転車でとっても良いようなのでうらやましいと思いました。上海では、ほとんど交通ルールを守っていただけで、奉化市では道路の点線も目安でしかなく怖かったです。

中国に行ったことで、中国のことだけでなく日本のこともすごく分かりました。私は、日本は本当に安全な国だと思います。交差点にはちゃんと信号機が付いているので死ぬんじゃないかとビクビクしなくていいし、人ご

みの中を歩いていてもあまり物を盗られたりしないので安全なのだと思います。でも、日本の私たちの英語力はまだまだだと思います。中国の子供たちは小さいころから英語を頑張っていて、私たちのレベルの低さを思い知らされました。今、中国は発展しようとして頑張っているときだと思います。そして今の子供たちが大人になったら、日本は中国に追い越されてしまうような気がします。あと分かったのが、意外と日本語がむずかしいということです。農園に行ったとき、日本語の説明文があったのですが、「かぼちゃ」が「かぼちや」になっていたり、「ピーマン」が「ピーマソ」だったりしていました。それはそれでおもしろかったけど、やっぱり文字数も多いし、日本語ってむずかしいんだなあと思いました。



私は、めったに出来ないようなホームステイが出来て本当によかったと思います。テーマの一つが「中国語を体験する。」で、どちらかというと英語になってしまいましたが、「もっと英語を頑張らない」と思いました。今回のホームステイは、自分の将来を決める上でとても有意義なものだったと思います。今度は違う国のホームステイにも挑戦したいと思います。

中国に行つて

向原中学校 2年 松井絵美

私は幼い頃から中国にあこがれていて、今回の中国体験派遣事業をとて楽しみにしていました。いざ中国に行ってみると、今まで感じなかった緊張と不安でいっぱいになってしまいました。が、ホストファミリーの藜莎さんとその家族がとてあたたかく迎えてくれました。藜莎はとて気を使ってくれて、外国人の私にためらいもなく接してくれたので、すぐ仲良くなれました。お父さん、お母さんも本当に良い方でした。

藜莎の家での生活は驚くことばかりでした。とにかく文化が違うので、食べ物の味、お風呂、寝るのも、自分の家とはすべて違って最後まで慣れることができませんでした。家の外でも驚くことばかりで、いつもきよろきよろあたりを見回していました。外を歩いていると車のクラクションが絶えないし、信号が赤でも渡るので、横断歩道の意味がありませんでした。その上、人が多いので、町中はごちゃごちゃしていました。でも、人口が多い分、朝早くから町はにぎわっていて、とて



朝とは思えませんでした。例えば公園です。朝7時なのに多くの人が太極拳やウォーキングをしていました。入間市の彩の森公園のような静けさではなく、まるでお祭りのようににぎわっていました。だから中国で寝坊はできないなと思いました。

私が中国に行つて一番やりたかったのは太極拳です。藜莎のお父さんが出来ることだったので、藜莎さんをお願いしてお父さんに教えていただきました。お手本として実演してくれた藜莎さんのお父さんの目は、知らず知らずのうちに真剣になって、ゆっくり動いているのに気迫に満ちていました。私も実際にやってみて、終わった後とて体が温かくなっていました。太極拳は、とて運動量が多いんだろうなと思いました。

今回、中国の文化に触れ、私は大変勉強になりました。想像と少し違う面もありましたが、本当に行つて良かったと思いました。でも、日本に帰つて思ったことは、「入間がどんなに住みよく恵まれているか」ということです。中国に行つたことによって、身近なもの一つひとつを有難く感じるようになりました。

これからいろいろな国の人と友達になって交流を深めたいと思いました。国が違って言葉が多少通じなくても、心をこめてお付き合いすれば仲良くなれることが分かりました。他国の良いところを知ると同時に、日本の良いところも伝えられるようもっと日本を知ろうと思いました。語学を勉強する目的もできました。

中国の食事について

黒須中学校 2年 坂本友香

中華料理は日本でも多くの人に食べられていますが、私が中国の食事に興味を持ったきっかけは、日本で食べる中華料理と本場の中華料理の味は違うと聞いていたので、一体どんな味なのか疑問に思ったからです。

実際に食べてみて、本場の中国料理は地方によって違うことが分かりました。気候によって味付けが決まっているらし

く、寒い地方なら味が濃くて塩辛い、暖かい地方なら薄味でさっぱりとしているそうです。

次に、私たちが食べた奉化料理と上海料理を比較してみます。奉化市と上海市は同じ地方なのに味も料理も違っていたので意外でした。奉化料理は脂っこくて癖がある味でした。特に煮魚は、川魚を使っているみたいで川の味がしました。上海料理はさっぱりとしていて食べやすかったです。この二つの料理の中では、上海料理が私には合っていました。

次に、箸の違い、食事の出し方です。中国の箸は、日本と違い長くて重くて先がとがっていませんが、使いやすかったです。食事の出し方は、主食が最後に出



ます。前菜が多いので主食が食べきれません。でも中国人は、前菜もしっかり食べる上に、主食もしっかり食べるので凄いと思いました。

最後に、飲み物の違いです。中国は、お茶が有名なので食事の度に毎回出ると思っていたのですが、出たのはたった一回だけなので意外でした。しかも茶葉ごと一緒に飲むので凄く苦かったです。また、中国の牛乳は、日本の牛乳より濃厚で甘みがありました。

中国と日本は、お隣同士の国であり、遥か昔から交流をしているにもかかわらず、日本との共通点が少ないのには驚きました。また中国に行く機会があったら、今度は多民族について学んでみたいと思いました。

中国という国

東町中学校 2年 川合理恵子

今年の夏、私は8月19日から24日まで中国でホームステイを体験しました。私が抱いていた中国のイメージは、自転車しかなくて、反日デモをしている中国では日本人を嫌いな人が多いかと思っていました。いろんな島の取り合いをしたり、となりの国なのに仲が悪く、コワイというイメージしかなかった気がします。今回なぜ応募したかという、私が抱いていたこれらのイメージが本当にそうなのか、自分の目で確かめてみたかったからです。

中国に着くまでは、不安と興味が入り混じっていました。到着後、入国のパスポートチェックを受けましたが、言い方がとてもきつくて、やっぱりコワイと思いました。また、空港の外に出たたん、鼻を突く臭いがして、あらためて中国に着いたことを実感しました。目的地の奉化市に向かう途中のバスからは、きれいな家やボロボロの家などいろいろ混ざった景色を見ました。途中トイレ休憩をしたときは、ドアがすごく低くてとなりが見えそうなくらいで、汲み取り式トイレだったので臭いもきつかったです。通訳の河野さんは、「中国人はみんな慣れている」といったけど、水洗トイレしか知らない私には信じられませんでした。

奉化市に着き、お世話になる子供たちが笑顔でバスまでとんで迎えに来てくれて、すごくうれしい気持ちになりました。到着したその日からホームステイ先での生活が始まりました。ホームステイ先での生活では、やっぱり言葉が通じなくてすごくあせりました。ご両親は中国語のみ、女の子(姉さん)はカタコトの英語しかしゃべれなかったため、英語でどうにかかなると思っていた私には苦痛に感じられました。いっぱいしゃべりたいという気持ちがあっても分かってもらえず、相手がしゃべっている英語も聞き取りにくく、何を話しているのか分からず大変でした。

私が泊まった家は、アパートみたいな感じでしたが、リビングがとても広くてびっくりしました。ベッドは板の上にたたみのようなものが敷いてあって、布団がなかったので痛かったです。トイレはトイレトーパーを流してはいけならしく、使った後はゴミ箱に捨てました。一緒に過ごして特に気がついたのは、顔を洗うことにこだわっていたことです。外から帰ってきて手を洗うより先に顔を洗い、朝起きて寝る前も顔を洗いました。夕飯には毎日エビとカニが必ず出てごちそうでした。中国の料理は脂っこいせいか、少し食べただけでもおなかがいっぱいになって、胃がもたれてしまいました。テレビでは、日本のアニメがたくさん放送されていてびっくりしました。また、ショッピングでは中国のものが何でもすごく安かったです。さらに、中国では交通ルールが全く守られていないことに驚きを感じました。クラクションを鳴らして、普通の道路でも100km近く出していて、とても怖い思いをしました。



中国と日本はいろいろ環境が違い、文化や言葉も違うけれど、実際に人と接し生活してみて、もっと話をしたらいろいろ分かりあえるかもしれないと私は思いました。今の日本と中国ももっと話し合い、お互いの文化や考え方を体験し合い、認め合えば仲良くなる解決法が見つかるかもしれないと思いました。

ドウ・ユウ・ライク・ジャパン?

野田中学校 2年 布施若菜

中国での体験は、何もかもが新鮮で驚きの連続でした。

私たちのホームステイを受け入れてくれた家庭は、とても裕福な家庭でした。イメージしていた中国は、もっと貧しいだろうと思っていたので、日本と同じくらい裕福なお世話になった家庭があることに驚きを感じました。しかし、家を出て周りを見ると、裕福な私のホームステイ先とは違う、私のイメージしていた貧しい家がたくさんありました。とても貧富の差が激しく、「貧富の差のあまりない日本に生まれてこられた私は幸せなんだなあ」と思いました。

奉化市に到着し、歓迎パーティーで初めて本格的な中華料理を食べて、とても量が多く、食べきれない程の料理を出されたのには驚きました。また、上海でも中華料理を食べたのですが、奉化市とは出されるメニューも異なっていました。味は、奉化市はこってり味、上海はあっさり味で、かなりの違いがあることに驚きました。そんな中で一番驚いたのは、蛙を食べたことです。食べてみてから蛙だと教えてもらって、意外においしくとても驚きました。日本に帰ってきてから、学校で蛙を食べた話をすると、「蛙なんて食べたの」と言われました。今まで食べたことのない物でも、意外においしい物があることに気づき、これからは色々なことにチャレンジしてみようと思いました。

最後に、私は中国へ行って聞いてみたいことがありました。「ドウ・ユウ・ライク・ジャパン?」・・・日本を嫌いな

人が、日本人を受け入れてくれるはずがないと分かっていたけれど、どうしても聞いてみたいと思っていました。でも、結局聞く必要はありませんでした。

私のホームステイ先の家族は、私のことを本当の家族のようによくしてくれました。私が4日目に腹痛を起こしてしまったときも、とても心配してくれて薬まで作ってくれました。また、私と莎莎さんが一緒に買い物に行ったときのことで、お店の人が私に話しかけ、私が何を言われているか分からないしていると、莎莎さんがお店の人に日本人であることを説明しました。そのとき、私はお店の人に嫌な顔をされるのではないかと心配でした。でも、そのお店の人は、普通に接してくれました。お客であったこともあるかもしれませんが、私はそのことをとてもうれしく思いました。

中国へ行き、いろいろな経験をすることができてよかったと思います。一番の思い出は、莎莎さんと出会って、中国の方々のやさしさに触れることができたことです。



中国文化体験に参加して

藤沢中学校 2年 田辺真悠

私にとって中国は特別な国ではなく、なぜか身近な国に感じていました。それは、きっと言葉が違うだけの同じ人間という意識があったからだと思います。入間市で中国にホームステイができるという事業の募集があったので、私は思い切って参加しようと思いました。集まったのは、私を含めて9名の中学生でした。

中国に行って一番感じたのは、日本は経済的に豊かな国だということです。私がホームステイをさせていただいた張聡聡さんの家庭は、どちらかというと裕福な家庭でした。家は4階建てで、床は大理石でした。最新のさまざまな電気製品が備えられていて、チャンさんの部屋は3つありました。また、子供の教育にも力が入っているようで、チャンさんは英語が母国語のように話せました。通っている中学校はとても大きく立派で、私が通っている学校よりも設備が整っていました。しかし一方では、奉化市に着くまでの道中では、舗装されていない道や整備されていないお手洗いやレンガ作りの家などがあり、日本では考えられない中国の生活格差の大きさを感じました。

食文化で驚いたのは、朝から麺が出ることでした。私は朝から麺を食べることには抵抗がありました。また、奉化市は海に近く、昼食と夕食には毎回カニとエビがつかまりました。その食べ方も日本と違い、殻ごと口に入れ、殻だけ吐き出します。私もそのようにして食べてみましたが、同じようにはなかなか出来ませんでした。味は濃い目で日本人にはどうかと思いました。さらに奉化市は桃の産地で、安くておいしい桃をたくさん食べさせてもらいました。私の考えていた中国料理は、チンジャオロースや酢豚、麻婆豆腐でしたが、それらは一回も食卓にあがりませんでした。



中国には日本の文化も少しありました。例えばテレビの番組では、カードキャプター桜や名探偵コナン、ドラえもん、クレヨンしんちゃん、テニスの王子様、スラムダンクを放送していました。チャンさんは、スラムダンクのキャラクターのことを詳しく知っていました。また、Kiroro が歌っている「未来」などが歌われていました。良いもの、楽しいもの、美しいものは国を問わず同じだと思いました。

このような体験に参加したことによって、生活の仕方や食文化の違いなどを実感しました。また、言葉が通じなくても同じぐらいの年齢の友だちができ、一緒に楽しく生活できたことが心の中に大きく残っています。異文化の体験というのは、自分の目で見て、自分の心で感じて、自分で行動することが大切だと思いました。来年は、中国から入間市にホームステイに来ます。日本の良さをたくさん伝えて、今回のお礼をしたいと思っています。またチャンさんに会えるといいなと思っています。それまでに中国語や英語を少しでも身に付け、安心してホームステイしていただけるよう努力していきたいと思っています。たくさんの貴重な体験や思い出ができた心に残る中二の暑い夏でした。

集合写真あれこれ

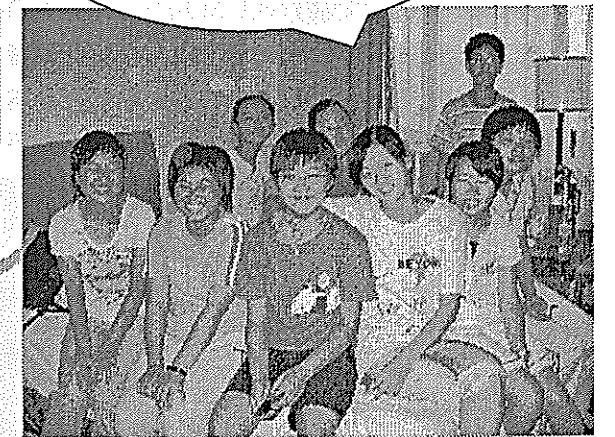
溪口にて



あれ？ 田辺凌君がいない！



ホテル一室で
(お別れ会の奉化市側
作戦会議)



上海市の
豫園にて



藤頭にて



明日はもっと美しい

通訳 河野靖子

本当に楽しみにしながら、ようやく出発日 8月19日を迎えました。私の気持ちには、9名の中学生と同じような好奇と期待の外、大きな一つの使命感が添えられました。この起動したばかりの「入間市中学生中国文化生活体験派遣事業」プロジェクトは、鳳凰の火を浴びるが如く、折りしも戦後日中関係史での厳寒期にあったからです。

随行通訳としての私は微力ながら、日中両国の中学生達がそれぞれ知りたいこと、興味を持っている問題が解明されるように、交流によって「政治上どんなことがあっても、友好と平和が両国民の大人から子供まで永遠の望みだ」とお互いにそういう気持ちを伝えられるように、最大限に努力をしたいと思っていました。

日本と中国は本当に近く、2時間20分の空旅、プラス1時間ぐらいのバス陸上旅で、奉化市の境界に入りました。私たちが奉化の土を踏むと同時に、ホームステイする入間市の中学生の写真を持って、ホストファミリーの中学生達はすぐ暖かくに囲んできました。瞬間自分のパートナーを見つけ、すると青春の息吹きが顔という顔に流れていました。本来、会場で坂本団長が中学生の一人一人をホストファミリーに紹介するはずでしたが、目の前では、さっそく子供たち同士が人カタクシーに乗って、各自の自宅に向かう光景がありました。(ちなみに大人の出迎えは一切ありませんでした。)

中国人としての私は、「友あり遠方から来る楽しからずや」という感覚に慣れていたのですが、その光景を見て、やはり深く感動しました。

時間は水が流れる如く、あっという間に三日間が過ぎ、

とうとうお別れの前夜になりました。

22日の夕方、奉化大酒店で、奉化市政府外事辦公室が主催したお別れのパーティーが開かれました。両市の中学生による司会と余興は、来賓の皆さんに深い印象を与えました。

奉化市の中学生は、古筝独奏や書道実演などを、わが市の中学生は、日本から持って来たフルートやサクソで日本と中国の曲を演奏し、20日のハードスケジュールの後に疲れを惜しまず奉化市で稽古した合唱・舞踊などを出しました。全員で「ソーラン節」を踊る時、伴奏がないので、皆で1.2.3...声でリズムに合わせていました。4人楽器演奏の「故郷」のリズムに、坂本団長はプロの歌声を添えました。

入間市の中学生達の集団精神、即戦能力及び多能の腕前には、私を含めて在席の人々が心を打たれました。錦屏中学校の董副校長先生は「日本では、中学校の基礎教育がこちらより優れています。学生達がバランスよく成長しています。」と評価してくださいました。

お別れ会の結びに、奉化中学生達は、「一緒に歌を歌いましょう」という一曲で幕を閉める時、私は、本当に可愛い両国中学生達の溢れた活気と明るい表情から、美しい明日の希望を見ました



経験するか、しないか

団長 坂本有司

「中学生の段階で中国を体験させたい」これは、私自身が是非実現したいと思っていたことでした。昭和30年代のモノが少なかった時代、不自由だった時代をそれなりに経験した私には、その当時の記憶や感覚が染み付いています。しかし今の子供たちは、幸か不幸か至れり尽くせりの時代に生を受け、あり余る情報やモノの中に生きています。中学生の段階で中国に行きたくて欲しいと思った理由は、現在の自分たちの生活に比べ、モノの少ない、不自由な空間を経験することによって、「今の自分たちの生活がいかに恵まれているか」を認識し、その経験と感性をこれからの人生に生かして欲しいという思いからでした。はからずも、子供たちの感想文の中には、「日本に住んでいる自分たちは恵まれている」という記述が随所に見られます。この点で、今回の派遣は所期の目的を達成したものと私自身は評価しています。「経験するか、しないか」は、これからの子供たちの人生の色彩を決める大きな要素であったと言えます。

次に、私が触れておかなければならない事は、感想文の中には記述されていない、記述することが出来ない記録が、子供たちの裡に大きな衝撃として残されていることです。友

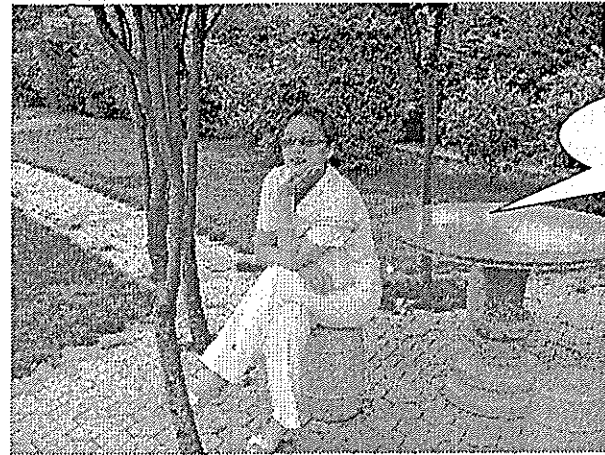
好都市・奉化市と上海市を今回訪問した中で、奉化市ではホストファミリーや先生方の十分な支援により、奉化市側が見せてくれる光景を目にすることで中国を体験しました。しかし、彼らの元を離れ、支援が及ばない上海市では、あるがままの中国を体験することができませんでした。上海市で体験した生々しい光景は、中学生にとっては衝撃そのものであったはずですが、日本の日常生活ではあり得ない、思わず目を覆いたくなるような不衛生で退廃的な母子、繁華街のごみ箱の中を入れ替わり立ち代り鏡でチェックする数多の人々など。当然のことながら、それらの見苦しい光景を子供たちは感想文にしたための必要はないのですが、心の中の感想文には記録しておいて欲しいと思いました。

さて、今回の奉化市訪問では、ホストファミリーの皆さん、錦屏中学校の先生方、そして人民政府の職員の方に大変お世話になりました。本当にいろいろな事、アクシデントがありました。しかし、子供たちの毅然とした態度、凛とした判断には、驚かされるのが数多くありました。親元を離れて生活することによって、逞しくなる子供たちを頼もしく思いました。

帰国前夜、上海の外灘を望む高級レストランで夕食を摂りました(自己負担)。大ホールで楽しむ多くの大人のお客さんを尻目に、中学生の団体が外灘を一望できる個室での豪華ディナー。周りの中国人たちからは、さぞかし奇異に写った光景ではなかったかと思えます。しかし、本当に良く頑張った子供たちへのご褒美としては、外灘の夕景、豪華な食事も贅沢とは言い難いものがあったと今も感じています。



憩いのひと時



このハイカラな女性
は誰でしょう？



芝生でゴロリ
Who is she?



奉化市から上海市へ
緊張の糸が切れ・・・
何だ！その格好



よっ！ 凌君
ツーショット！
(足踏み水車)



アヒルにかぶりつき！

お別れ会

(2005年8月22日 奉化市大酒店)

司会：奉化市側 張 聡聡
入間市側 松井 絵美

日中中学生の出し物

No	出し物	備考
1	縦笛独奏 エーディルワイス 過ぎ去った出来事忘れられない	奉化市側
2	フルート独奏 風車小屋の間奏曲 楽器演奏 海よ！故郷（中国曲） 故郷	入間市側
3	書道実演	奉化市側
4	団体舞踊 ソーラン節	入間市側
5	独唱 私の未来夢ではない	奉化市側
6	三人合唱 未来	入間市側
7	古箏独奏 漁港の夕日	奉化市側
8	合唱 花	入間市側
9	合唱 一緒に歌を歌いましょう	奉化市側

